

平成23年度林業研究所の試験研究評価

林業研究所試験研究評価実施要領に基づき、平成23年度に実施した林業研究所試験研究評価委員会の内容は次のとおりでした。

委員

- ・三重大学名誉教授
- ・建築設計士事務所代表取締役
- ・林業経営者
- ・三重大学生物資源学部講師　　の4名

1. 平成23年度第1回試験研究評価委員会

開催日：平成23年9月20日（火）　場所：林業研究所

内容：事前評価及び中間評価

1) 委員長選出

委員会運営内規に基づき、委員の互選により、委員長に三重大学名誉教授が選出されました。

2) 評価対象課題

事前評価及び中間評価課題とも、研究担当者がプレゼンテーションを行い、質疑応答のあと、評価方法内規に基づき20点満点で採点されました。平均点が12点を下回るものについては、林業研究所長が研究課題の不採択、中止及び計画の変更等を検討することになります。評価対象課題と評価結果及び出された意見は以下のとおりです。

(事前評価)

①県産スギ小径材の小割材への利用に関する研究 評価平均点 12.50点

出された意見：商品開発には独創性が重要なので全面に出すように心がけること。

在来や2×4に限らず小割材の利用しやすい提案に期待する。

木材利用に関する研究は重要である。

スギを使うメリットについても研究を。

(中間評価)

①造林初期における保育コスト低減技術の開発 評価平均点 15.75点

出された意見：下刈り可否判定技術の確立がコスト低減への寄与について検討を。

研究内容に対する期待は高い。

期間が限られるのでねらいを絞ることを検討してはどうか。

実験や現地調査の設定について、結果の統合に向け確認を。

②商品化を目指したきのこ栽培技術の開発 評価平均点 16.00点

出された意見：本物志向に応える成果を上げるように。

オオイチョウタケ、キクラゲの商品化を期待。

成果の普及にも力をいれること。

2. 平成23年度第2回試験研究評価委員会

開催日：平成24年3月6日（火） 場所：林業研究所

内容：事後評価

研究評価委員会における4人の評価委員による評価結果の概要は、以下のとおりです。

評価対象課題

① ニホンジカの生息密度管理と森林被害防除に関する研究 評価平均点 17.5 点

出された意見：施業計画とのコラボなど更なる発展を期待する。

いろいろな防止策が開発されることを期待する。

生息数のデータの解析と解釈をもう少し工夫すれば、林業だけでなく生態学的にも重要な情報を提供できると思う。

森林施業の方法（植栽、防護柵等）と関連づけた研究を進めてほしい。